

3・11からの30人の子供達へ

平成23年12月31日

原町中央産婦人科医院

院長 高橋 亨 平

3月11日以来、南相馬市で生まれた子供は僅か30人であった。4月に1人、5月に1人であった。この時点で、私は、このままだと、この町は将来、廃墟になると確信をした。5月から其々の都合により、避難出来ない妊婦全員に、フィルムバッジを着け、個人線量の測定をJCFと共同で行なった。その結果を見ながら、家の周辺の線量、休む場所の線量等を測定し、生活の指導により改善が見られた。更に心配な人の家は、除染を行ない、徹底して妊婦及び子供を守る町を呼びかけた。あり得ないとは思いますが、単純計算で30年後の若者の数は0歳から30歳まで900人、100年後の人口は、全員が100歳まで生きたとして、3000人となる。嫁を娶り、子供を生めば1万5000人位になるかも知れない。ここからが私の戦いであった。安全な町にしなければ誰も帰っては来ない。こうして全国の戦友達と戦い、また、皆に守られながら、12月31日までで30生まれた。従って、100年後は1万5000人に増えたことになる。

もし、今年、一人も生まれなかったならば、南相馬市は絶望の町であり、更に、絶望が絶望を呼び、滅び行く宿命となることは明らかであった。そんな希望の無い町には、役所も要らないし、病院も要らない。ただ死んでいくだけの町であり、未来への希望は全く無かったと振り返る。

30人の子供達に、先ずはこう言いたい。ありがとう！！
よくぞこの世に、この地に、この家に、そして何よりもこの時期に生まれてきてくれた。君達のお陰で我々も生きる希望が持てた。ありがとう！！

心から、あり難く、そして嬉しく感謝で一杯です。
この地域に、妊婦さんは、入ってはだめと、国からの通達があったとのことであつた。それなのに君達の両親はこの地で生む事を、決心し立ち向かったのです。その中で聞いた、元気良い、“うぶごえ” 本当に、スタッフ共々、そして、勿論この地で戦っている君達のご家族の皆さんにも、今回ほど重い責任と大きな喜びに感じた事はなかったと思う。

君達が遅く成長していく姿を何時までも見て行きたいが、私にはもうそんな時間は残されていない。ただ、君達を、日本国が許さなかった、厳しい環境

の中で、君達を生んでくれた両親と共に、手助け出来た事は私の生涯の誇りであり、君達も、堂々と誇りを持って、生きていってくれる事を心から願ってやまない。頑張れ！

未だ、進行形の原発事故、世界中の英知を結集しても解決は出来ないかもしれない。しかし、放射線医学、環境エネルギーの開発、超伝道電線で世界中にロスなく送れる電力会社、ビル農業（高炭酸ガス+長時間の光+ロボット+温度）陸上海水養殖漁業、リアス式潮力発電等無限にテーマある。私が遣り残した無限のテーマ、遣りたいことだらけだった。だが、私には医師としての天職が付きまとった。だから、ここから脱出していろいろな事を研究するには、あまりにも人生は時間が無さ過ぎた。

君達が成人して挑戦して欲しい。100年先のこの地域を、君達は見届ける事が出来るかもしれない。正しい目で結果を見て欲しい。

数多くの困難が待ち受けていることは明らかだと思うが、誇りを持って立ち向かって欲しい。

そして又、この愚かな国の結末をしっかりと見て、正しい国にして欲しい。